

理科・環境教育助成 成果報告書

第3回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名： 榎本 寛子 所属： 横浜市立本牧南小学校

課題名： 感じ・考え・実感できる子を育てる理科・生活科指導のあり方

1. 課題の主旨

子ども一人ひとりの育ちを的確に見とり、指導に返していく「指導と評価の一体化」に重点をおき、感じ・考え・実感できる学習過程を大切にしながら、個に応じた指導方法や評価方法、授業形態の工夫改善の研究を深めることで、本校の教育目標の一つである「問題解決の力を高める」に迫る。

2. 活動状況

<感じ・考え・実感できる子にするために>

- 子ども一人ひとりが自分の思いや願いをもつ、あるいは、自分の問題をもつことができる学習展開の工夫
 - ・子どものつぶやき、表情、活動の様子、アンケート（選択カードを含む）、イメージマップによる子どもの実態把握
- 工夫して活動していく、あるいは、見通しをもって解決していくことができる学習展開の工夫
 - ・記録する力（ノートづくり等）の育成
 - ・たとえや動作化、イメージ図（描画）、ワークシート、伝え合いカード等によるイメージの明確化と計画的な情報交換の場の設定
- 意欲的に生活していこうとする子、あるいは、科学的な見方や考え方をつくっていく子を育てる学習展開の工夫
 - ・学習の振り返りと日常生活とのかかわりの意識付け
 - ・実感を伴った理解を図るためのものづくりや自然災害に関する内容の充実
 - ・ノートやワークシートを活用した自然事象についての理解の定着

<個に応じた指導と評価（習熟度別指導による）>

- 個に応じた指導方法の工夫
 - ・単元全体を見通した「指導と評価の計画」の「具体的評価規準」から、子どもの習熟の程度に応じた支援の展開
 - ・座席表の工夫による、子ども一人ひとりへの具体的な支援の充実
 - ・子どものよさや可能性を伸ばすための指導形態の工夫
 - （子どもの実態に合った学習集団の編成…学級内分割、学年内分割等）
 - （学習集団の編成のタイミング）
 - （発展的な学習・補足的な学習の導入）

- ・自分に合った学習集団を選択するための自己評価力の育成
 (ノートや学習カードによる振り返りの指導)
 (学習集団を選択するための判断基準の明確化)
- 指導と評価の一体化を目指した評価方法の工夫
 - ・学習前の子ども一人ひとりの的確な実態把握
 (イメージマップやアンケート、プレテスト等)
 - ・子どもの実態に合わせた「指導と評価の計画」の作成
 - ・単元全体を見通した「指導と評価の計画」の「具体的評価規準」による、子ども一人ひとりの学習状況の把握
 (つまずきの状況の把握とその要因の解明)
 (具体的な支援の検討)
 (子どもの実態に合った学習集団の検討)
 - ・座席表の工夫による、子ども一人ひとりへの具体的な支援の明確化
 (表記する項目の精選…本時の支援につながる項目。内容の羅列ではなく)

3. 結果

- ノートづくりの形式を示し、教師が励ましや共感等のコメントを日々加えることで、子どもの記録する力が高まってきた。この力の高まりが学習への自信や意欲につながり、積極的に問題を解決しようとする態度となって表れるようになった。
- たとえやイメージ図、伝え合いカードを用いるなど、自分らしさを生かし、多様に表現する力も高まってきた。
- 子どもの実態をもとに「指導と評価の計画」を作ることで、単元全体を見通した指導のあり方や評価のあり方が明確になった。
- 「子ども一人ひとりの支援を明確にした座席表」を活用することで、より具体的な支援を行うことができた。また、計画的に学習を組み立てることができた。

4. 今後の課題と発展

- 指導と評価の一体化をより一層図ることで、子どもの豊かな表現を教師が的確に「拾い」、それを個や全体の学習に「生かす」ようにする。
- 「子ども一人ひとりの支援を明確にした座席表」をもとに支援を行うが、特に教師一人による指導の場合、子ども一人ひとりに対してタイミングよく支援することが難しい。学習内容によっては、子どもの実態を数パターンの傾向として把握し、支援を焦点化していくことも大切である。
- 習熟度別指導をより効果的なものにするために、子どもに自分の学習の振り返り方等を指導するなど、子どもの自己評価力を育成していく必要がある。

5. 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など